

のごとし。法華經の行者に値ぬればいろを失魂をけすなり。かゝるいみじき法華經と申御經はいかなる法門ぞと申せば、一卷方便品よりうちはじめて菩薩・二乘・凡夫皆佛になり給やうをとかれて候へども、いまだ其しるしなし。設ば始たる客人が相貌うるわしくして心もいさぎよく、口もきいて候へばいう事疑なけれども、さきも見ぬ人なればいまだあらわれたる事なければ、語のみにては信がたきぞかし。其時語にまかせて大なる事度々あひ候へば、さては後の事もたのもしなんと申ぞかし。一切信て信ぜられざりしを第五卷に卽身成佛と申一經第一の肝心あり。譬へばくろき物を白くなす事漆を雪となし、不淨を清淨になす事、濁水に如意珠を入たるがごとし。龍女と申せし小蛇を現身に佛になしてましくき。此時こそ一切の男子の佛になる事をば疑者は候はざりしか。されば此經は女人成佛を手本としてとかれたりと申。されば日本國に法華經の正義を弘通し始まませし、叡山根本傳教大師の此事釋給には、能化所化俱無歴劫妙法經力卽身成佛等。漢土の天台智者大師法華經の正義をよみはじめ給しには、他經但記男不記女乃至今經皆記等云云。此は一代聖教の中には法華經第一、法華經の中には女人成佛第一なりとことわらせ給にや。されば日本一

①第9紙14行餘②②ぎ十(く)③第10紙13行④④歴=量⑤第11紙13行餘⑥

切の女人は法華經より外の一切經には女人成佛せずと嫌とも、法華經にだにも女人成佛ゆるされなばなにかくるしかるべき。しかるに日蓮はうけがたくして人身をう

け、値がたくして佛法に値奉る。一切の佛法の中に法華經に値まいらせて候。其恩徳ををもへば父母の恩・國主の恩・一切衆生の恩なり。父母の恩の中に慈父をば天に譬へ、悲母を大地に譬へたり。いづれもわけがたし。其中悲母の大恩ことにほうじがたし。此を報ぜんとももうに外典の三墳・五典・孝經等にて報ぜんともへば、現在をやしないで後生をたすけがたし。身をやしない魂をたすけず。内典佛法に入て五千七千餘卷、小乗大乘は、女人成佛かたければ悲母の恩報がたし。小乗は女人成佛一向に許れず。大乘經は或は成佛、或は往生を許たるやうなれども佛の假言にて實事なし。但法華經計こそ女人成佛、悲母の恩を報ずる實の報恩經にては候へと見候しかば、悲母の恩を報ぜんために此經の題目を一切の女人に唱させんと願す。其に日本國の一切女人は漢土の善導、日本慧心・永觀・法然等にすかされて、詮とすべきに南無妙法蓮華經をば一國の一切の女人一人も唱ることなし。但南無阿彌陀佛と一日に一返十返百千萬億反乃至三萬十萬反、一生が間晝夜十二時に又他事なし。道心堅固なる女人も